

業務運営進行表

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

所属	局名	部名	室・課(出先は所属)名	所属のホームページ
	環境農政局	農政部	農業技術センター	http://www.pref.kanagawa.jp/div/1611/
			同横浜川崎地区事務所	http://www.pref.kanagawa.jp/div/1618/

I 業務概要

農業技術センター所長の北です。

農業技術センターでは、県民の皆様には新鮮で安全・安心な県産農産物を安定して供給できる、都市と共存した「かながわ農業」を実現するため、かながわらしい新品種の育成や低コストで環境にもやさしい生産技術の開発などの試験研究に取り組んでいます。

また、農業者にこれらの新品種や新技術等を積極的に普及するとともに、次世代の担い手育成や地域農業の活性化に向けた支援等も行っていきます。

このほか、農作物に被害を与える病害虫の発生状況等に関する情報提供や農薬・肥料に関する立入検査など、農業生産に係る幅



II 収支の状況

(単位：千円)

		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	出納整理期間	累計	
収入	収入科目	年間計画額	収入済額					
	使用料及び手数料	133	44	21	49		114	
	諸収入	45,363	33	27,472	5,536	10,445	1,753	45,239
	その他	7,415	1,843	2,309	1,176	916		6,244
	収入計(A)	52,911	1,920	29,802	6,761	11,361	1,753	51,597
支出	事業経費	(再)配当額	支出済額					
	事業費	118,286	10,532	25,363	31,982	33,182	17,227	118,286
	維持管理費	92,292	12,066	13,813	15,526	30,683	20,204	92,292
	計	210,577	22,597	39,176	47,508	63,865	37,430	210,577
	人件費(注1)		350,957	231,979	354,291	242,792		1,180,020
支出計(B)		373,554	271,156	401,799	306,657	37,430	1,390,597	
差額(A)-(B)(注2)			△ 371,635	△ 241,354	△ 395,038	△ 295,296	△ 35,677	△ 1,339,000

(注1) 人件費には職員数に共済費及び退職手当の平均単価を乗じて算出した共済費相当額(事業主負担分)及び退職手当相当額が含まれています。

(注2) 差額の△(マイナス)には、県税や県債、国庫支出金等を充当しています。

(注3) 各項目毎に千円未満四捨五入を行っているため、各計欄は各項目を合計したものと一致しない場合があります。

III 職員配置状況

配置職員数	区分	4月1日	7月1日	10月1日	1月1日
	常勤職員	110	111	110	110
	上記以外の職員	45	48	49	54
	計(人)	155	159	159	164

IV 業務実施状況

1 試験研究、普及指導事業の新たな方針等の策定

平成28年度からスタートする新たな試験研究推進構想、協同農業普及事業実施方針及び普及指導基本計画を策定する。

項目	実績・進捗状況	
・試験研究推進構想、協同農業普及事業実施方針及び普及指導基本計画の策定	第1・四半期	所内の作業チームや普及次課長会議等での検討を踏まえ、5月に試験研究推進構想の骨子案を6月には試験研究推進構想及び協同普及事業実施方針の素案を作成し、所内で検討しました。
	第2・四半期	関係課との調整、関係機関からの意見聴取を行い、試験研究体系の整理と普及指導基本計画等の様式を作成し、部所長会で試験研究推進構想案、様式を検討しました。
	第3・四半期	部所長会で試験研究推進構想案及び協同農業普及事業実施方針案を検討し、環境農政局長への説明を行いました。また、試験研究推進構想案については、課題検討会議を開催し、関係機関から意見聴取を行いました。
	第4・四半期	最終案の調整等を行い、試験研究推進構想及び協同農業普及事業実施方針を公表しました。また、普及指導基本計画は上記の実施方針に基づいて所内検討を行ない策定しました。

2 マーケット・インの視点に基づいた技術開発

消費者の潜在ニーズを捉えた新品種の育成と新需要開拓に向けた品種選定及び安定栽培技術の開発に取り組む。

項目	実績・進捗状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・トマト「湘南ポモロン」の新系統の選抜・育成 ・トマト「湘南ポモロン」やダイコン「湘白」など育成品種の品質特性の解明 ・JVトレリス仕立て(注1)によるナシの超早期成園化・省力化栽培試験 	第1・四半期	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南ポモロンは、前年度に播種したレッド及びゴールドの改良系の選抜を行い、採種を行いました。また、4～6月に収穫した果実の成分分析を実施しました。 ・ナシ主要品種「幸水」でJVトレリス仕立ての試験を行うため、ジョイント接ぎ木を行うとともに、受粉、摘果、新梢管理の省力性の調査を行いました。
	第2・四半期	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南ポモロンは、レッド及びゴールドで改良系として個体選抜したものについて、特性調査と採種のための栽培を実施しています。 ・湘南ポモロンの夏秋どり栽培で、有望系統の選抜を行いました。また、6～8月に収穫した果実(露地栽培)の成分分析を実施しました。 ・JVトレリス仕立てについては、授粉等管理作業の省力性や収量、果実品質の調査を行いました。
	第3・四半期	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南ポモロンは引き続き前期の栽培を継続しました。 ・湘白は、12月に生鮮品の品質評価、加熱加工時、つま加工時の品質評価を実施し、今後、その特徴を明らかにします。また、湘南ポモロンは、12月に収穫された果実(施設栽培)の成分分析を実施しました。 ・JVトレリス仕立ては、側枝の生育特性(新梢長、枝径等)の調査を行いました。
	第4・四半期	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南ポモロンの選抜個体の特性調査と採種のための栽培を行なっています。 ・湘南ポモロンは、1、2月に収穫された果実の成分分析を、湘白は、つま加工適正の評価を行いました。 ・JVトレリス仕立ては、着果管理、枝梢管理の省力性と若木収量を慣行栽培と比較し、その優位性を明らかにしました。



トマト「湘南ポモロン」
(ゴールド、レッド)



ダイコン「湘白」



ナシのJVトレリス仕立て(注1)

注1：従来のジョイント仕立てより、低い位置で樹の主枝部を連続して接いだ仕立て法

3 都市農業の持続的な発展のための技術開発

担い手の多様化に対応した省力化栽培技術や、再生可能エネルギー等を利用した省エネルギー栽培技術の開発に取り組む。

項目	実績・進捗状況	
<ul style="list-style-type: none"> 農業用アシストスーツの現地実証試験 地下水を利用したイチゴ局所環境制御システム(注2)の確立 	第1・四半期	<ul style="list-style-type: none"> 農業用アシストスーツは、三浦市内の野菜農家を対象に省力効果や希望する利用作業、希望購入価格等についてアンケート調査を実施しました。 イチゴ局所環境制御システムは、昨年定植した株について5月上旬まで生育・収量調査を行いました。
	第2・四半期	<ul style="list-style-type: none"> 農業用アシストスーツは、露地野菜生産者等における省力効果の現地実証試験を実施しています。 イチゴ局所環境制御システムは、所内及び現地で定植を完了し、システムを設置して稼働を開始しました。
	第3・四半期	<ul style="list-style-type: none"> 水稻、花・植木、露地野菜生産者の協力を得て農業用アシストスーツの省力効果の現地実証試験を実施しました。 イチゴ局所環境制御システムは、所内及び現地でイチゴの収穫調査と施設環境データの収集を開始しました。
	第4・四半期	<ul style="list-style-type: none"> 農業用アシストスーツは、軽労化効果が認められました。今後、実用化に向けてスーツの軽量化や装着の簡易化などさらなる改良が必要であることも分かりました。 イチゴは局所環境制御システムの確立に向けた試験栽培を実施しています。



農業用アシストスーツ
(和歌山大学開発)



イチゴの局所環境制御システム(注2)

注2：イチゴの株元に冷水(夏)や温水(冬)を流して、生育を制御し、省エネと高品質化を図る栽培方法

4 環境にやさしい技術開発

環境にやさしい病害虫防除技術の開発に取り組む。

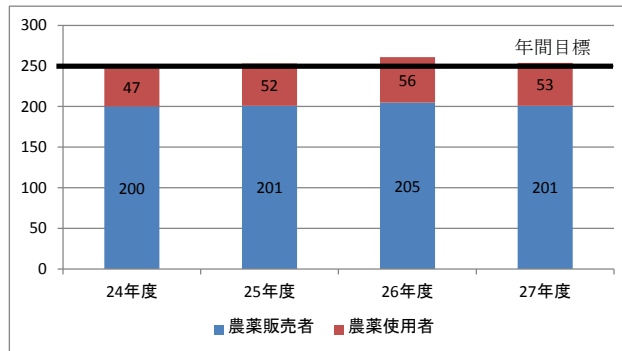
項目	実績・進捗状況	
<ul style="list-style-type: none"> イチゴの主要病害虫に対する総合防除体系(注3)の確立 	第1・四半期	イチゴの育苗期間(4～8月)にかん水作業によって広がる炭疽病の感染を抑制する資材の効果について、試験を実施しています。
	第2・四半期	移植前のイチゴ苗に二酸化炭素処理を実施することによって、ハダニ、アブラムシ類、アザミウマ類等の微小害虫に対する防除効果を検証しました。
	第3・四半期	赤色ネット等物理的防除資材による各種微小害虫に対する効果を検証しました。
	第4・四半期	赤色ネットや二酸化炭素処理などの物理的手法を主体とした防除体系を確立するための試験を実施しています。

(注3) 農薬の使用量を削減するため、天敵等による生物的防除とネットや二酸化炭素などを利用した物理的防除も組み合わせた総合的な病害虫防除技術

5 安全な農産物の生産を確保するための取組み

農薬販売業者及び農薬使用者に対する計画的な立入検査、巡回指導等を実施する。

項目	年間目標 (計画)	実績 (単位: 件)				
		第1・四半期	第2・四半期	第3・四半期	第4・四半期	累計
農薬販売業者	200	57	52	47	45	201
(前年度実績)	205	40	80	21	64	205
農薬使用者	50	21	14	1	17	53
(前年度実績)	56	22	22	1	11	56



立入検査・巡回指導の実績 (件数)

6 新規就農者等の育成

次世代のかながわ農業を担う意欲ある若手農業者を育成するための農業セミナーを開催する。

項目	年間目標 (計画)	実績 (単位: 人)				
		第1・四半期	第2・四半期	第3・四半期	第4・四半期	累計
集合セミナー延べ参加人数	280	87	27	24	85	223
(前年度実績)	266	51	55	35	124	265



集合セミナーによる講義



集合セミナーによるほ場巡回検討会

V 業務運営に関する評価

所属長評価	第1四半期	<p>今期は、技術開発については、計画通り果実の成分分析や生産者のアンケート調査、試験のための準備作業に取り組みました。また、新たな方針等の策定は、試験研究推進構想及び協同農業普及事業実施方針の素案を作成し、所内で検討しました。</p> <p>農薬販売業者等に対する立入検査、巡回指導については、計画的に実施するとともに、農業セミナーについては、対象となる新規就農者と実施日等を調整しながら開催した結果、前年度同期を大幅に上回る(171%)参加人数となりました。</p> <p>来期以降も目標達成に向けて計画的に業務を進めてまいります。</p>
	第2四半期	<p>今期は、技術開発については、授粉等の管理作業の省力化や果実成分の分析調査などを行うとともに、秋冬作の試験に向けた準備作業に取り組みました。また、新たな方針等の策定は、関係機関から素案に対する意見聴取を行い、試験研究推進構想案や様式を所内で検討しました。</p> <p>農薬販売業者等に対する立入検査、巡回指導や農業セミナーについては、概ね計画通りの進捗となりました。</p> <p>来期以降も目標達成に向けて計画的に業務を進めてまいります。</p>
	第3四半期	<p>今期は、技術開発については、湘白の品質評価を実施するとともに、農業用アシストスーツの現地実証試験などに取り組みました。また、試験研究推進構想案については、関係機関から意見聴取を行い、所内で検討しました。</p> <p>農薬販売業者等に対する立入検査、巡回指導は計画通りでしたが、農業セミナーはやや低い進捗となりましたので、来期以降、目標達成に向けて計画的に業務を進めてまいります。</p>

	第4四半期	<p>最終期には、試験研究推進構想及び協同農業普及事業実施方針の最終案の調整等を行い、策定・公表することができました。また、農薬販売業者等に対する立入検査、巡回指導についても計画通り実施できました。技術開発については、まだ試験中の項目がありますが、計画的に進めています。</p> <p>農業セミナーについては、対象者の技術レベルや経営内容が多様で、日程等の関係から目標達成率は82%になりましたが、個別のフォローにより、技術取得を支援しました。</p>
	総合評価	<p>今年度は、次年度からスタートする試験研究業務及び普及指導業務の基本方針を計画通り策定・公表することができました。試験研究業務では、J Vトレリス仕立ての優位性を明らかにするとともに、農業用アシストスーツの軽労化効果を現地試験で確認できました。また、農薬販売業者及び農薬使用者に対する立入検査、指導についても計画通り実施し、目標を達成することができました。</p> <p>普及指導業務の新規就農者の育成については、農業セミナーの目標達成率は82%に止まりましたが、個別のフォローにより、必要な支援を実施しました。次年度に向けては、対象となる新規就農者と日程等を調整しながら参加者数の増加に努めます。</p>

連絡先（電話番号）	0463-58-0333
-----------	--------------